



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.89

子どものがんばる力を支える「プレパレーション」

保健福祉学部 看護学科

講師

佐々木 俊子



◆「プレパレーション」とは

「プレパレーション」は、子どもでも分かる方法で入院や処置について説明を行い、子どもなりに納得し心の準備ができるように関わることです。病院では、処置前の説明による心構えづくりのほか、子どもが受け入れやすいように、DVDなどで説明したり、おもちゃの注射器でごっこ遊びなど疑似体験したりと工夫して行われ、ストレス緩和のための遊びが重点的に行われています。また、タイミングも大切です。例えば、3〜6歳頃の子どもの記憶できる期間が2、3日と言われています。説明して覚悟を持たせても、早すぎるといざという時には忘れてしまうことになってしまいます。説明で重要なことは、子どもが自分に何が起るかをイメージさせることで

「なぜするのか」だけでは、「チクワンって何、痛い」「不安や恐怖が強くなってしまつてしまいます。」手を出してもらおうけど寝ころがる？それともお母さんに抱っこしてもらおう？、「刺すときはチクツと痛いよ、一番大事なところだから泣いてもいいけど手は動かさないでね」など、どんな感覚で具体的にとどのようにしたらいいのかを伝えることがポイントです。そして、子ども自身はどうやってやりたか選択できると覚悟も固まります。また、子どもにとってぬいぐるみや人形は空想の世界で実在する仲間・ヒーローであるため、「ピカチュウも頑張れたよ」、「仮面ライダービルド頑張れっ」と言ってるよとおまじないで頑張れることもあります。

◆「プレパレーション」の効果

プレパレーションを行っても、緊張したり痛くて泣いてしまつことは、どうしても起こりうることなのですが、採血のときに泣きながらも手を動かさなかったことや、緊張のあまり怒りながらも看護師と手をつないで処置室に行くことができたなど、その子なりに頑張っている姿が見られます。1歳以下の子どもの処置中に音の鳴るおもちゃやお気に入りのおもちゃなど、気を逸らし少しの間泣き止むことができます。「プレパレーション」の効果は、子どもなりに頑張れた・上手くいったという経験になり、

自信を高めることです。処置が終わる看護師さんから、「頑張ったね、えらかったね」と褒められたり、頑張ったシールやキャラクターの絵が描かれたばんそうこうを貼ったりすると、それは子どもにとつて頑張った証となります。さらに、親御さんからも褒められ認められると成長の階段を少し登ることが出来ます。この頑張りは、子どもが自分の力を信じるための大切な経験となります。



《学生が作製したプレパレーショングッズ》

本学の学生もプレパレーションを学び、子どもの発達に合わせて絵本や変身ベルトなどを作製しています。病院実習では、子どもたちが痛いことから少しでも気が紛れ頑張る力を発揮できるように一生懸命応援しています。

大学図書館へようこそ！

大学では授業開始が遅れたため、その後の様々な日程の変更が余儀なくされています。平穏なあたり前の学生生活が一日でも早く送れるよう願っています。



【5月の開館について】

・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、現在、学外者の大学図書館利用を休止しています。学外者の利用可否につきましては大学ホームページ等で随時お知らせします。(https://webopac.nayoro.ac.jp/)

◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)

大学図書館にはこんな本があります

～「知」への誘い～からもう1歩～



子どもの医療やプレパレーションに関する図書を紹介します。

- 『医療を受ける子どもへの上手なかかわり方』
原田香奈・相吉恵ほか/編 日本看護協会出版会
→子どもの医療現場でのかかわり方・支援の仕方がわかりやすく解説されています。
- 『チームで支える！子どものプレパレーション』
古橋知子・平田美佳/編 中山書店
→病院の様々な場面でのプレパレーションの実践例が豊富に紹介されています。
- 『いつもいいことさかし』『いつもいいことさかし 2』
細谷亮太/著 暮しの手帖社
→小児がん専門医の著者が見た、子どもたちのいのちの成長を綴っています。雑誌『暮しの手帖』連載の文章です。